



あかるく元気な子 だれにも親切な子 しっかり考える子 ことばを大切にする子



親子読書のすすめ



○10月20日(金)、「平成29年度文化芸術による子供の育成事業 一巡回講演事業一」音楽座ミュージカル『リトルプリンス』を鑑賞することができました。テレビや映画で見えるのではなく目の前で生の舞台芸術を見ることができ、また参加することもできて、とても楽しくすてきな時間となりました。子どもたちも言っていました、やっぱり迫力があありますね。この迫力に魅せられて、子どもたちの将来の夢がまた一つ増えればいいなあと思いました。

この「リトルプリンス」＝「星の王子さま」は、ずいぶん前に本で読んだことがあったのですが、ミュージカルを見ても「えっ？こんな話だったっけ？」と思ってしまうほどすっかりその内容を忘れてしまっていたので、家に帰ってもう一度読み直してみました。すると、あの登場人物も、あの場面も、ミュージカルと見事に重なり合っ、改めてとてもいいお話だなと感じました。また、いろいろと考えさせられる物語だとも思いました。



そこで、提案です。是非、親子でこの「星の王子さま」を読んでみませんか。そして、親子で次の事柄の意味について語り合ってみませんか。

☆1本のバラの花に対する王子の思い

☆そのバラの花とけんかしたことをきっかけに旅に出た王子が、他の小惑星で出会った人たちの言葉や生活

- ・自分の権威を保つために命令で人を服従させようとする王
- ・ほめ言葉しか耳に入らないうぬぼれ男
- ・酒を飲む事を恥ずかしいと思いながらも、それを忘れるために酒を飲み続ける酒飲み
- ・夜空の星すべてを自分のものだと言主張し、その数を何度も数え続けるビジネスマン
- ・1分間に1回転するため、1分ごとに街灯をつけたり消したりしている点灯夫
- ・自分の書齋を離れたことがないという地理学者

☆仲よくなったキツネが言った言葉

- ・「飼い慣らしたのものには、いつだって、君は責任がある。」
- ・「ものは心で見ると。肝心なことは目では見えない。」

☆別れを悲しむぼくに王子が言った言葉

- ・「夜の空を見て、あの星の一つにぼくが住んでいて、そこでぼくが笑っている、ときみは考えるだろう。だからぜんぶの星が笑っているように思える。きみにとって星は笑うものだ！」

など、けっこう深い意味があるような気がします。子どもと大人では感じ方に違いもあるのではないのでしょうか。親子読書を通じて、たまには童心に戻ってみるのもいいですね。「大人は誰でも元は子どもだった」と原作者サンテグジュペリも語っています。

(文章中の言葉等の引用：集英社文庫「星の王子さま」サンテグジュペリ 池澤夏樹訳)

